

東京言語研究所 集中講義のご案内

東京言語研究所では、言語学を研究されている方や言語学に興味をお持ちの方を対象に「理論言語学講座」をはじめとして様々な講座を開講しております。「集中講義」は、多様な研究の一領域を集中的に学べる講座です。ぜひご参加ください。

＜演題＞ 生成文法理論における進化的妥当性の探究

＜講師＞ 藤田 耕司（京都大学名誉教授）

＜日時＞ 2025年3月8日（土） 13:00～18:00（90分講義×3コマ）

9日（日） 13:00～18:00（90分講義×3コマ）

＜講義形式＞ ZOOMによるオンライン講義

＜参加費＞ 一般 12,000円(税込)

2024年度理論言語学講座受講生 9,000円(税込)

※事前振込制

＜申込み＞ ホームページ「[申込フォーム](#)」

またはQRコードからお申込ください。



※ 申込み受付期間：

1月31日(金)10:00AM～3月3日(月)10:00AM

○ 問合せ先

一般財団法人ラボ国際交流センター 東京言語研究所

〒169-0072 東京都新宿区大久保 1-3-21 ルーシッドスクエア新宿イースト 2階

TEL:03-6233-0631 FAX:03-6233-0633

E-mail:tokyogengo@labo-global.co.jp 公式サイト:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

講義概要

普遍文法（UG）の最大簡潔化を目指すミニマリスト・プログラムの進展によって、今や「プラトンの問題」（言語獲得の論理的問題）を超えて「ダーウィンの問題」（言語進化の論理的問題）を論じることが可能になりましたが、その背景には、いかに優れた理論であってもそれが進化的に妥当でなければ（言語能力の起源・進化を説明できなければ）まったく意味をなさないという認識があります。では現在の生成文法理論に進化的妥当性はあるのかと問われれば、否定的な答えにならざるを得ませんが、その一因はこれまで主張されてきた言語の種固有性・領域固有性を進化の問題にまで拡張してしまったことにあります。結果的には固有形質であっても、その起源・進化においては言語はヒトや他種が言語とは無関係に発達させてきた様々な機能が組み合わさって出現したと考えることで、より自然な言語進化観を形成することができます。この講義では、この意味での「進化的連続性」を重視した考察を進めて、結局、普遍文法は存在するのかという核心的な問題にまで踏み込んだ提言を行います。

講師紹介：

1958年大阪生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科名誉教授。当初は生成統語論を専門にしていたが、後に主たる関心を進化言語学・生物言語学に移す。主要刊行物に *The Cambridge Handbook of Minimalism and Its Applications* (CUP 近刊), 『言語進化学の未来を共創する』(ひつじ書房 2022), 『言語研究と言語学の進展 III』(開拓社 2018), “On the parallel evolution of syntax and lexicon” (*Journal of Neurolinguistics* 43, 2017), *Advances in Bilingualism: The Human Language Faculty and Its Biological Basis* (Routledge 2016), 『日英対照 文法と語彙への統合的アプローチ』(開拓社 2016), *Recursion: Complexity in Cognition* (Springer 2014), 『言語の設計・発達・進化：生物言語学探究』(開拓社 2014) 『進化言語学の構築』(ひつじ書房 2012), “A prospect for evolutionary adequacy” (*Bilingualism* 3, 2009) など。

<タイムスケジュール> (予定) ※時間配分は講義の進行によって前後する場合があります。

3月8日(土)

13:00 講義—1
14:30 講義—1 終了 休憩
14:45 講義—2
16:15 講義—2 終了 休憩
16:30 講義—3
18:00 講義—3 終了

3月9日(土)

13:00 講義—1
14:30 講義—1 終了 休憩
14:45 講義—2
16:15 講義—2 終了 休憩
16:30 講義—3
18:00 講義—3 終了